

設計GL=KBM-50

※この範囲 基礎芯・基礎幅 注意してください!

アンカーボルト位置 特記箇所以外 柱芯より200

凡例	
床束	鋼製束を示す @910
ネジワシ金物	H/D金物用、柱脚用アンカーボルトは M16 (Zマ-アンカーボルト(A)認定品)を使用
アンカーボルト	M12 L=450フック付 @2,700以内
床下通路	特記箇所以外 W600×H350(内部)
	立上り切欠部
基礎パッキン	100×214 t=20 取付は仕様書参照 柱下部及び土台継手位置に取付 敷込間隔@1,000以内
基礎	基礎立上がり天端はG.L+400 べた基礎コンクリートはt150mmとする
床下点検口	
ベタ基礎	t=150 D13 @200 (タテヨコ共)
土間 コンクリート	t=120 D10 @200 (タテヨコ共)

柱頭柱脚に取付ける金物		
告示記号	告示記号	接合金物の仕様
い		短ほぞ差し、かすがい打ち 同等品
ろ	CP-L	長ほぞ差し、込栓打ち 又は、L字形かど金物くぎ CN65×5本
は	CP-T VP	T字形かど金物くぎ CN65×5本 山形プレート金物くぎ CN-90×8本
に	P	羽子板ボルト 同等品
ほ	PS	羽子板ボルトにスクリーナ
へ	HD10	引き寄せ金物 S-HD10 2本 同等品
と	HD15	引き寄せ金物 S-HD15 3本 同等品

床組工事 防腐・防蟻措置を講ずる部分	
1	土台(木口、ほぞ及びほぞ穴を含む)
2	外壁部の柱・間柱(木口、及びほぞを含む)
3	筋違い及び下地板(胴縁を含む)のうち、地面からの高さ1m以内の部分 ただし化粧柱は、見えがかり部分を除く
4	台所及び洗面所等の水がかりとなるおそれのある箇所の壁の軸組(胴縁及び下地板を含む)
5	床組(床下地板・根太掛け等を含む)

- ・コンクリート: JIS A 5308に規定されたレディーミクストコンクリートとする。
- ・コンクリート強度 FC=24N/mm スランプ18 (平均気温10℃以上)  
FC=27N/mm スランプ18 (平均気温2℃以上10℃未満)
- ・鉄筋かぶり厚さ 土に接する部分t60  
土に接しない部分t40

# 建築基準法 総合判定表

日付: 2025年03月05日 18:47:28

建物コード: 000002

建物名: ○○ ○○様邸

## ■ 建物情報

屋根の重さ	軽い屋根	<del>重い屋根</del>	風力区分	一般地域	<del>強風地域</del>
-------	------	-----------------	------	------	-----------------

## ■ 壁量計算

建築基準法施行令第46条「構造耐力上必要な軸組等」第4項により軸組長さを検討する方法

階	方向	地震力			風圧力			存在壁量 (cm)	壁量充足率		判定 H $\geq$ 1.00 かつ J $\geq$ 1.00	壁量計算 判定
		床面積 (m <sup>2</sup> )	係数 (cm/m <sup>2</sup> )	必要壁量 (cm)	見付面積 (m <sup>2</sup> )	係数 (cm/m <sup>2</sup> )	必要壁量 (cm)		地震力	風圧力		
		A	B	C=A $\times$ B	D	E	F=D $\times$ E	G	H=G $\div$ C	J=G $\div$ F		
2	X	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	適合
	Y	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
1	X	125.88	11	1384.68	17.22	50	861.00	3639.60	2.62	4.22	○	
	Y			1384.68	44.52		2226.00	3458.00	2.49	1.55	○	

・床面積、見付面積: “\*”は編集値(任意に入力した値)を使用  
 ・地震力の必要壁量: 「地盤割増」「必要壁量割増」を含みます  
 (地盤割増: 1.00、必要壁量割増: 1.00)

・判定: 「壁量充足率(地震力 $\cdot$ 風圧力)」がともに1.00以上  $\rightarrow$  ○  
 「壁量充足率(地震力 $\cdot$ 風圧力)」の一方でも1.00未満  $\rightarrow$  ×  
 ・壁量計算判定: 「判定」がすべて“○”の場合  $\rightarrow$  適合

## ■ 偏心率

平成12年建設省告示第1352号「木造建築物の軸組の設置の基準を定める件」

階	方向	偏心率	判定 偏心率 $\leq$ 0.30	偏心率判定
2	X	-	-	適合
	Y	-	-	
1	X	0.02	○	
	Y	0.05	○	

### ● 四分割法と偏心率の判定について

平成12年建設省告示第1352号「木造建築物の軸組の設置の基準を定める件」では、「四分割法」または「偏心率」のいずれかの判定が適合となること、とされています。

四分割法判定 = “適合” または 偏心率判定 = “適合”

・判定: 「偏心率」が0.30以下  $\rightarrow$  ○  
 「偏心率」が0.30超  $\rightarrow$  ×

・偏心率判定: 「判定」がすべて“○”の場合  $\rightarrow$  適合  
 「判定」がひとつでも“×”の場合  $\rightarrow$  不適合

## ■ 四分割法

平成12年建設省告示第1352号「木造建築物の軸組の設置の基準を定める件」

階	方向	位置	床面積 (m <sup>2</sup> )	係数 (cm/m <sup>2</sup> )	必要壁量 (cm)	存在壁量 (cm)	壁量充足率	充足率判定	壁率比	壁率比判定	四分割法判定
			①	②	③=① $\times$ ②	④	⑤=④ $\div$ ③	⑤ $>$ 1.00	⑥=⑤小 $\div$ ⑤大	⑥ $\geq$ 0.5	⑤or⑥=○
2	X	上	-	-	-	-	-	-	-	-	適合
		下	-	-	-	-	-	-	-	-	
	Y	左	-	-	-	-	-	-	-	-	
		右	-	-	-	-	-	-	-	-	
1	X	上	31.47	*11	346.17	1092.00	3.15	○	-	-	
		下	31.47	*11	346.17	1546.80	4.46	○	-	-	
	Y	左	31.48	*11	346.28	910.00	2.62	○	-	-	
		右	31.48	*11	346.28	1092.00	3.15	○	-	-	

・必要壁量: 「地盤割増」を含みます。(地盤割増: 1.0)  
 ・充足率判定: 「充足率判定」が“×”の場合は、その方向の壁率比判定を行います。  
 ・四分割法判定: 「充足率判定」または「壁率比判定」が“○”の場合  $\rightarrow$  適合  
 ・係数: “\*”がついている箇所は平屋建てまたは下屋の係数を使用。

## ■ N値計算

平成12年建設省告示第1460号「木造の継手及び仕口の構造方法を定める件」

N	告示表三	金物名	金物数量 (箇所)		
			1階	2階	計
0	(い)	短ほぞ差し又はかすがい打ち、又はこれらと同等以上の接合方法としたもの	46	0	46
~0.65	(ろ)	長ほぞ差し込み栓又はかど金物CP-L、又はこれらと同等以上の接合方法としたもの	30	0	30
~1.0	(は)	山形プレートVP又はかど金物CP-T、又はこれらと同等以上の接合方法としたもの	0	0	0
~1.4	(に)	羽子板ボルト又は短冊金物(スクリーナなし)、又はこれらと同等以上の接合方法としたもの	36	0	36
~1.6	(ほ)	羽子板ボルト又は短冊金物(スクリーナあり)、又はこれらと同等以上の接合方法としたもの	2	0	2
~1.8	(へ)	10kN引き寄せ金物、又はこれらと同等以上の接合方法としたもの	0	0	0
~2.8	(と)	15kN引き寄せ金物、又はこれらと同等以上の接合方法としたもの	4	0	4
~3.7	(ち)	20kN引き寄せ金物、又はこれらと同等以上の接合方法としたもの	0	0	0
~4.7	(り)	25kN引き寄せ金物、又はこれらと同等以上の接合方法としたもの	0	0	0
~5.6	(ぬ)	15kN引き寄せ金物 $\times$ 2、又はこれらと同等以上の接合方法としたもの	0	0	0
5.6超	(一)		0	0	0

※金物数量は柱頭で1箇所、柱脚で1箇所と集計しています

# 【建築基準法】壁量計算

建物名 ○○ ○○様邸

---

壁量計算表

存在壁量明細表

壁量計算平面図

見付面積根拠図

見付面積計算表

床面積根拠図

床面積計算表

■注意事項

・建築基準法施行令第46条「構造耐力上必要な軸組等」第4項により軸組長さを検討する方法に準拠した計算を行います。

(株) SekkeiSupport

# 壁量計算表

日付: 2025年03月05日 18:47:28

建物コード: 000002

建物名: ○○ ○○様邸

## ■ 建物概要

建物コード	2
建物名称	○○ ○○様邸
備考	
入力者	
建築地名	

床面積 (㎡)	2階	-
	1階	125.88
屋根の重さ	軽い屋根	
軟弱地盤割増	割増なし	
風力区分	一般地域(50cm/㎡)	

## ■ 地震力による必要壁量計算

階	床面積 (㎡)	地震力用係数 (cm/㎡)		地盤割増	必要壁量割増	必要壁量 (cm)
	A	B		B1	B2	C=A×B×B1×B2
2	-	軽い屋根	-	1.00	1.00	-
1	125.88		11			1384.68

・床面積: 1階に「オーバースタック」「ポーチ」および「バルコニー」の面積は含みません。「小屋裏収納等」は各階面積に含みます。  
「\*」が付いている数値は面積編集により変更された面積

・地震力用係数: 地震力に対する床面積あたりの必要壁量(cm/㎡)  
※右表参照

・地盤割増: 特定行政庁が建築基準法施行令第88条第2項の規定によって指定した区域内における場合は1.5とします。  
(建築基準法施行令第46条)

・必要壁量割増: 壁量の割増係数(任意設定)。1.00以上1.50以下の範囲で設定を行うことができます。

<地震力用係数表>

	軽い屋根	重い屋根
2階	15	21
1階	29	33
平屋	11	15

## ■ 風圧力による必要壁量計算

階	方向	見付面積 (㎡)		風圧力用係数 (cm/㎡)	必要壁量 (cm)
		D	E	F=D×E	
2	X	-	イ	-	-
	Y	-	ロ	-	-
1	X	17.22	ハ	50	861.00
	Y	44.52	ニ	50	2226.00

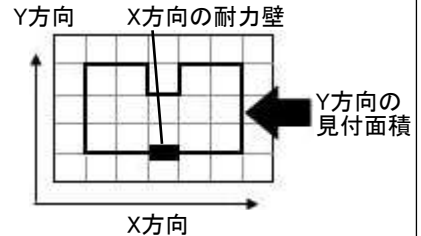
・見付面積: 『見付面積計算表』の(イ・ロ・ハ・ニ)参照

・風圧力用係数: 『\*』が付いている数値は面積編集により変更された面積

・風圧力に対する見付面積あたりの必要壁量  
・特定行政庁が特に強い風が吹くと定めた地域: 51~75(cm/㎡)  
・その他の地域: 50(cm/㎡)

### ●見付面積の方向について

X方向の必要壁量を求める際はY方向の見付面積を用います。



## ■ 壁量判定表 (壁量充足率)

階	方向	必要壁量		存在壁量 (cm)	壁量充足率		判定
		地震力 (cm)	風圧力 (cm)		地震力	風圧力	
		C	F	G	H=G÷C	J=G÷F	
2	X	-	-	-	-	-	-
	Y	-	-	-	-	-	-
1	X	1384.68	861.00	3639.60	2.62	4.22	○
	Y	1384.68	2226.00	3458.00	2.49	1.55	○

・存在壁量: 壁倍率×壁長 ※『存在壁量明細表』を参照

・壁量充足率: 存在壁量÷必要壁量(地震力・風圧力)

・判定: 壁量充足率(地震力、風圧力)がともに1.00以上の場合 → ○  
壁量充足率(地震力、風圧力)が一方でも1.00未満の場合 → ×

## ■ 壁量計算判定

壁量充足率の各階、各方向の判定がすべて“○”の場合 → 適合  
壁量充足率の各階、各方向の判定がひとつでも“×”の場合 → 不適合

壁量計算判定

適合

## ■ コメント

# 使用耐力壁一覧

日付: 2025年03月05日 18:47:28

建物コード: 000002

建物名: ○○ ○○様邸

材種名	最低厚さ (mm)	規格	釘打ちの方法		倍率
			種類	間隔 (mm)	
筋かい(45×90)	-	-	-	-	2.00
筋かい(45×90)	-	-	-	-	4.00

# 存在壁量明細表 (1階X方向)

日付: 2025年03月05日 18:47:28

建物コード: 000002

建物名: ○○ ○○様邸

柱 1	柱 2	部位名	材種名	注意事項	壁倍率	壁長 (cm)	存在壁量 (cm)	備考
					a	b	G=a×b	
5	6	(筋かい)	筋かい(45×90) ダブル		4.00	182.00	728.00	
7	8	(筋かい)	筋かい(45×90) ダブル		4.00	91.00	364.00	
21	22	(筋かい)	筋かい(45×90) ダブル		4.00	91.00	364.00	
26	27	(筋かい)	筋かい(45×90) シングル		2.00	91.00	182.00	
35	36	(筋かい)	筋かい(45×90) ダブル		4.00	113.70	454.80	
43	44	(筋かい)	筋かい(45×90) ダブル		4.00	113.70	454.80	
49	50	(筋かい)	筋かい(45×90) シングル		2.00	91.00	182.00	
51	52	(筋かい)	筋かい(45×90) シングル		2.00	91.00	182.00	
54	55	(筋かい)	筋かい(45×90) シングル		2.00	182.00	364.00	
56	57	(筋かい)	筋かい(45×90) シングル		2.00	182.00	364.00	
存在壁量合計							3639.60	

**■表記の説明**

「壁倍率」: # → 同位置に複数の耐力壁が存在する場合、耐力壁の壁倍率の合計が上限値の5.0倍となるように低減

「備考」: ※ → 斜め壁の直交成分を表示

「網掛け」:  → 設計者が任意に追加した材種の行は網掛けで表示されます。

# 存在壁量明細表 (1階Y方向)

日付: 2025年03月05日 18:47:28

建物コード: 000002

建物名: ○○ ○○様邸

柱 1	柱 2	部位名	材種名	注意事項	壁倍率	壁長 (cm)	存在壁量 (cm)	備考
					a	b	G=a×b	
1	16	(筋かい)	筋かい(45×90) ダブル		4.00	136.50	546.00	
38	40	(筋かい)	筋かい(45×90) ダブル		4.00	91.00	364.00	
5	17	(筋かい)	筋かい(45×90) シングル		2.00	136.50	273.00	
17	24	(筋かい)	筋かい(45×90) シングル		2.00	136.50	273.00	
8	11	(筋かい)	筋かい(45×90) シングル		2.00	91.00	182.00	
20	27	(筋かい)	筋かい(45×90) ダブル		4.00	136.50	546.00	
47	57	(筋かい)	筋かい(45×90) シングル		2.00	91.00	182.00	
9	14	(筋かい)	筋かい(45×90) シングル		2.00	91.00	182.00	
48	58	(筋かい)	筋かい(45×90) シングル		2.00	91.00	182.00	
10	15	(筋かい)	筋かい(45×90) ダブル		4.00	91.00	364.00	
30	39	(筋かい)	筋かい(45×90) ダブル		4.00	91.00	364.00	
存在壁量合計							3458.00	

**■表記の説明**

「壁倍率」: # → 同位置に複数の耐力壁が存在する場合、耐力壁の壁倍率の合計が上限値の5.0倍となるように低減

「備考」: ※ → 斜め壁の直交成分を表示

「網掛け」:  → 設計者が任意に追加した材種の行は網掛けで表示されます。

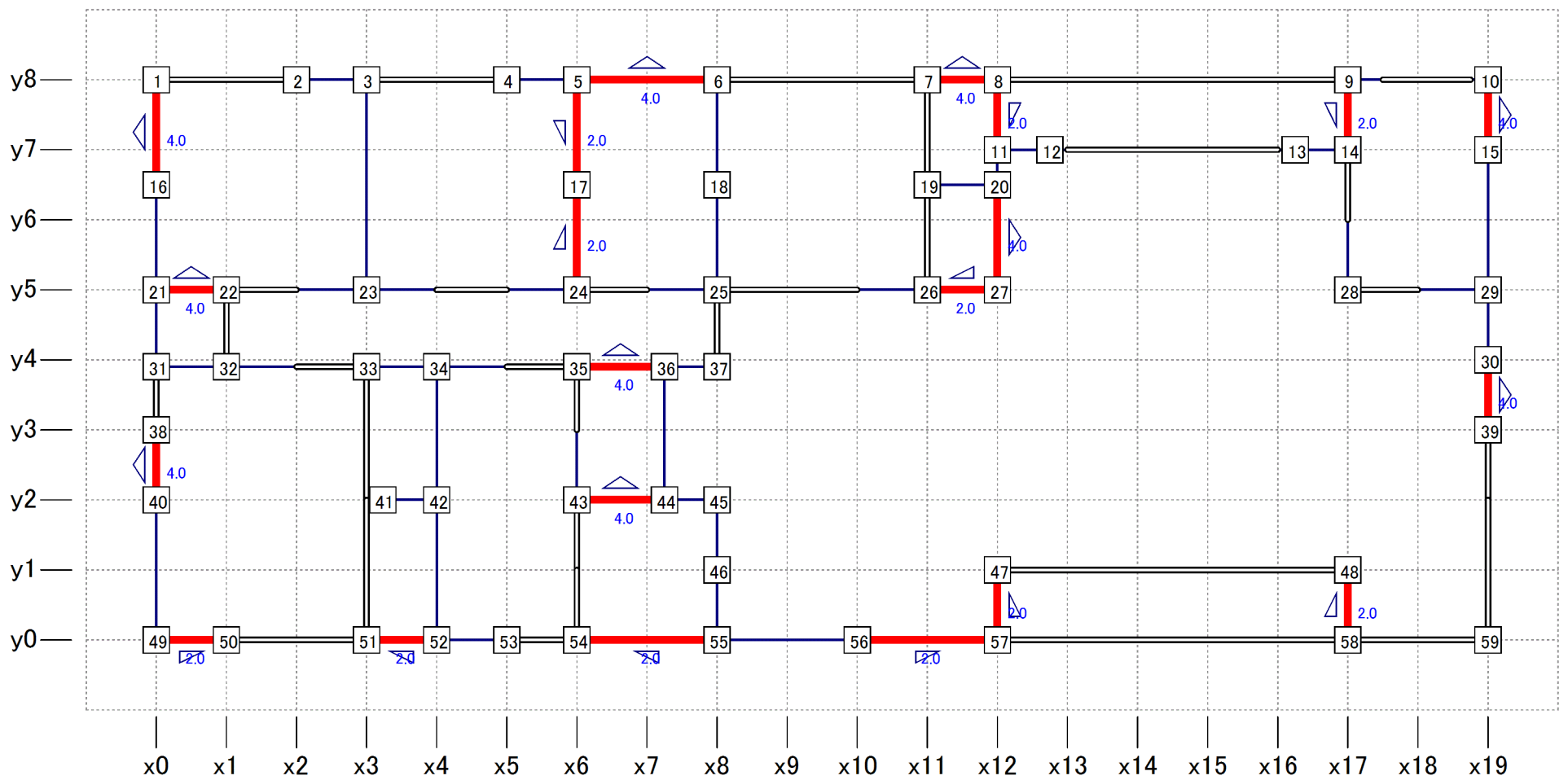
# 壁量計算平面図

日付: 2025年03月05日 18:47:28

建物コード: 000002

建物名: ○○ ○○様邸

1階



縮尺 1/80

- 凡例
- 一般壁
  - 開口部
  - 筋かいダブル
  - 筋かいシングル
  - 小屋裏収納等
  - n 柱



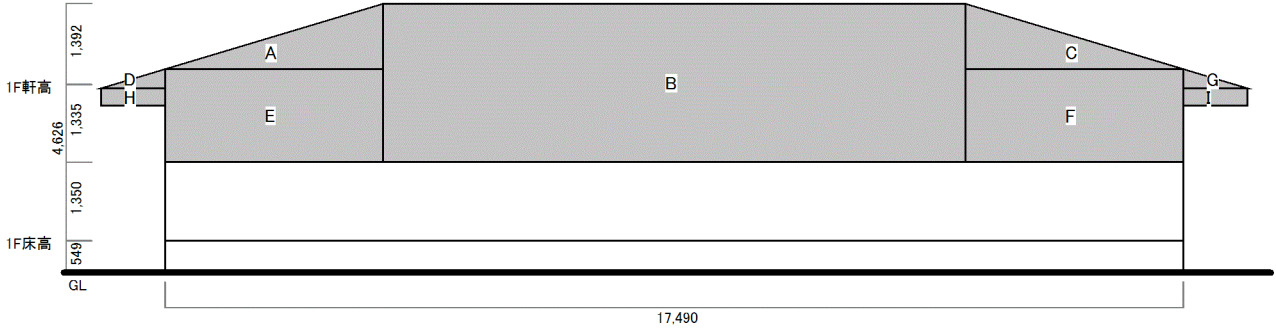
# 見付面積根拠図

日付: 2025年03月05日 18:47:28

建物コード: 000002

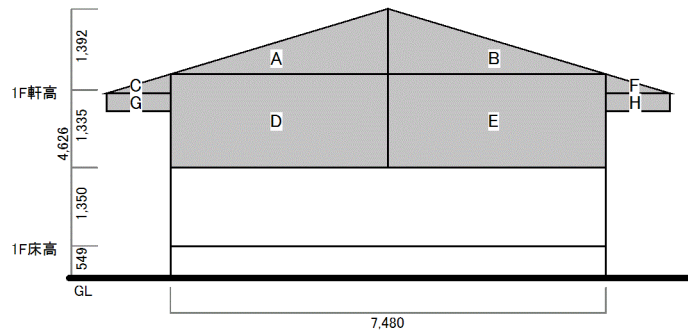
建物名: ○○ ○○様邸

## ■X方向



縮尺 1/130

## ■Y方向



縮尺 1/130

### 凡例

■ 1、2階見付面積加算範囲

■ 1階見付面積加算範囲

屋根形状1F: 寄棟

※表示されている建物形状は、壁芯から壁厚さ、屋根厚さ分外側に広げた形状です。

軒の出: 1200mm

ケラバの出: 1200mm

壁厚さ: 100mm

屋根厚さ: 300mm

# 見付面積計算表(X方向)

## Y方向の壁量計算用

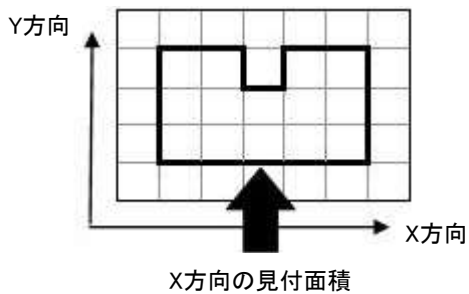
日付: 2025年03月05日 18:47:28  
 建物コード: 000002  
 建物名: ○○ ○○様邸

区画	計算式	面積 (m <sup>2</sup> )
A	$3.740 \times 1.122 \div 2$	2.0981400
B	$10.010 \times 2.727$	27.2972700
C	$3.740 \times 1.122 \div 2$	2.0981400
D	$1.100 \times 0.330 \div 2$	0.1815000
E	$3.740 \times 1.605$	6.0027000
F	$3.740 \times 1.605$	6.0027000
G	$1.100 \times 0.330 \div 2$	0.1815000
H	$1.100 \times 0.300$	0.3300000
I	$1.100 \times 0.300$	0.3300000

### ■計算結果

階	計算式	見付面積 (m <sup>2</sup> )	記号
2階	—	0.00	口
1階	A+B+C+D+E+F+G+H+I	44.52	二

### ■見付面積の方向



# 見付面積計算表(Y方向) X方向の壁量計算用

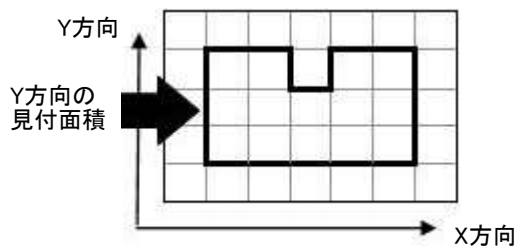
日付: 2025年03月05日 18:47:28  
建物コード: 000002  
建物名: ○○ ○○様邸

区画	計算式	面積 (m <sup>2</sup> )
A	$3.740 \times 1.122 \div 2$	2.0981400
B	$3.740 \times 1.122 \div 2$	2.0981400
C	$1.100 \times 0.330 \div 2$	0.1815000
D	$3.740 \times 1.605$	6.0027000
E	$3.740 \times 1.605$	6.0027000
F	$1.100 \times 0.330 \div 2$	0.1815000
G	$1.100 \times 0.300$	0.3300000
H	$1.100 \times 0.300$	0.3300000

## ■計算結果

階	計算式	見付面積 (m <sup>2</sup> )	記号
2階	—	0.00	イ
1階	A+B+C+D+E+F+G+H	17.22	ハ

## ■見付面積の方向



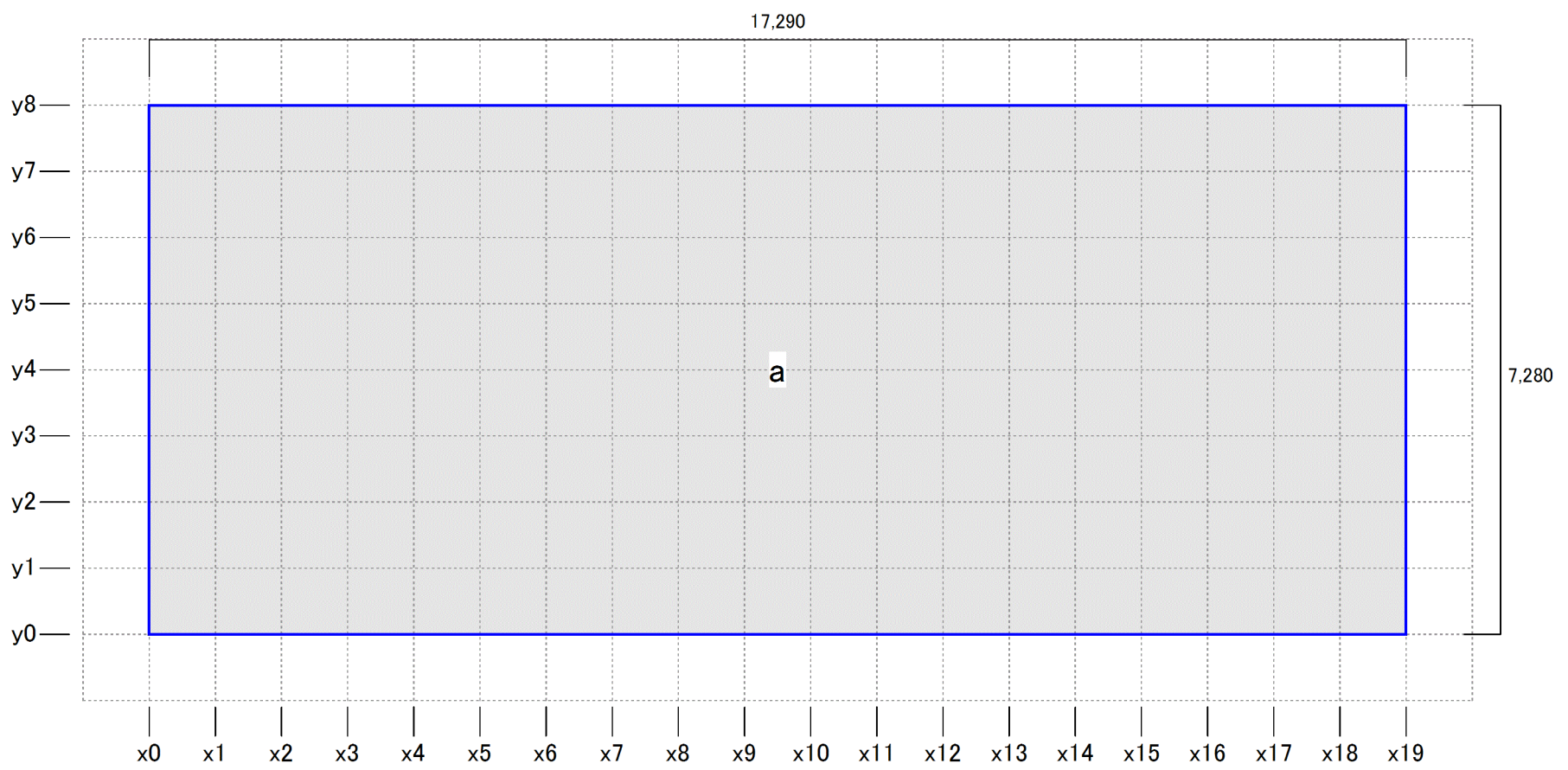
# 床面積根拠図

日付: 2025年03月05日 18:47:28


建物コード: 000002

建物名: ○○ ○○様邸

1階



縮尺 1/90

凡例  床面積区画  
abc..... 床面積区画名

# 床面積計算表

日付: 2025年03月05日 18:47:28

建物コード: 000002

建物名: ○○ ○○様邸

## ■ブロック別床面積計算表

[1階]

区画	縦 (m)	横 (m)	床面積 (㎡)	備考
a	7.280	17.290	125.8712000	

## ■壁量計算用床面積

階	部位	計算式	壁量計算用床面積 (㎡)
2	床		0.00
	小屋裏収納等		0.00
	合計	$(2階床) + (2階小屋裏収納等) \times 1.4 \div 2.1$	0.00
1	床	a	125.88
	小屋裏収納等		0.00
	合計	$(1階床) + (1階小屋裏収納等) \times 1.4 \div 2.1$	125.88

### ■記号の説明

「備考」:

- ◇ → 小屋裏収納等範囲(小屋裏収納等の水平投影面積  $\times 1.4 \div 2.1$ )
- ◆ → 小屋裏収納等重複範囲(小屋裏収納等の水平投影面積  $\times 1.4 \div 2.1 \times 2$ )
- ▲ → 三角形区画

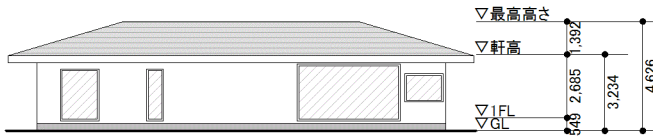
# 立面図

日付: 2025年03月05日 18:47:28

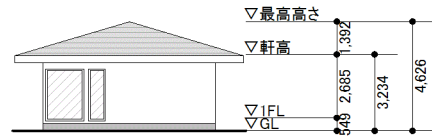
建物コード: 000002

建物名: ○○ ○○様邸

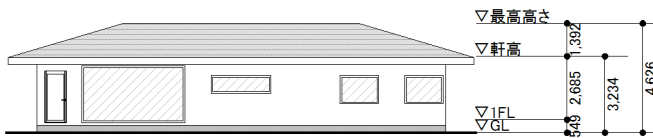
南立面図



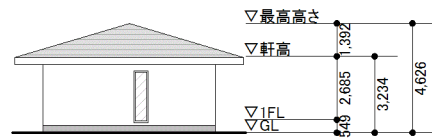
東立面図



北立面図



西立面図



縮尺: 1/320